

salesforce

Intelligence

各構築フェーズで使用する資料

Salesforce

最終更新日: 2024/2/29



学習の目的



- 1 構築フェーズ別にどのような情報整理が必要かを理解する
- 2 提供されているテンプレート資料へのアクセス方法を知る

目次

- 学習の目的
- 各構築フェーズで使用する資料
 - 構築フェーズごとに使用するドキュメントの例
 - 資料のメンテナンスとバックアップ
 - サクセスナビで提供している資料
- Appendix
 - ソリューション設計図とは



各構築フェーズで 使用する資料



構築フェーズごとに使用するドキュメントの例



- 可視化要件の把握
- データ接続準備
- データ統合条件の整理

- データの接続検証

- 複数データの統合

- 統合されたデータの可視化

使用する資料

- 利用シナリオ整理
- 画面モック
- 要件整理シート
- データソース一覧
- データ設計書
- ソリューション設計図
- 課題管理表

- 数値QA管理表

- 画面設計図
- 画面QA管理表

- 運用資料
- 利用マニュアル
- トレーニング資料



資料に関する補足

設計の複雑さやプロジェクト関係者の人数などに応じて下記の資料を用います。

- **ソリューション設計図(ダイアグラム)** : 連結項目やワークフローなどのプロセスを図で記載
- **画面設計書** : フィルタの連動範囲やカラーコードの指定、運用上の注意などを記載
- **管理者向け運用資料** : データストリーム設定値など管理者向けの運用マニュアル
- **運用資料** : データ更新のみ行うユーザーなど一部の運用作業に切り出したマニュアル
- **利用マニュアル** : 閲覧のみ行うユーザーに向けた画面やエクスポート仕様の説明資料



重要 | 資料のメンテナンスとバックアップ



各資料は定期的にメンテナンスを行い、反映漏れがないようにします。

なお、プラットフォーム上の下記の項目はバージョン情報を保持できないため、リリース時、および変更作業実施前に一覧をダウンロードしておくことをおすすめします。

- データストリーム一覧
- データマッピングビジュアライザー
- ディメンション / メジヤメントの一覧

等



サクセスナビで提供している資料(※2024年2月時点)



プロジェクトの全体像を整理

要件定義に進む前の3つのステップ

- データ活用に関する認識合わせ
- データ全体像の整理
- 業務プロセスの整理とユースケースの設定

AsIsとToBeの例		
観点	Asis	ToBe
部署間の連携	部署間でそれぞれのツールを利用しているため、データを横串で見ることが、全ての人が同じ数字を見てコミュニケーションを行うことができない。	部署をまたいで全ての人が同じ数字を見て、KGI達成のためのコミュニケーションを行うことができるようになる。
指標の統一	部署やチームによってKPIがバラバラで、見るべき指標が統一されていない。	会社全体で見えるべき指標が統一されている。
属人化の解消 / ナレッジの蓄積	業務が属人化しており、人事異動があると前任者のナレッジが組織のナレッジとして蓄積されない。	ナレッジやノウハウが属人的なものではなく、組織の中で蓄積・共有されている。
工数の削減	手作業でのレポート作成に時間がかかっており、分析や次の打ち手の検討に時間を十分に割ることができない。	レポート作成を可能な限り自動化し、削減できた時間を分析や次の打ち手の検討にあてることができるようになる。

サクセスナビは [こちら](#)

データ要件の情報を整理

- データソース一覧
- ヒアリング項目一覧
- 取り込みデータ一覧
- データ設計書
- 課題管理表

No	データソース名称	概要	社内データ要件				連携方法	データ形式	取り込み頻度	Intelligence
			データ整理項目	更新頻度	データ保持期間	アカウント情報				
サンプル	YahooJapanディスプレイ	2022/5/1受領	件数	課別	課名	件数	件数	件数	件数	件数
サンプル	データストリーム名		サンプル_広告データ	サンプル_GA						
サンプル	データ接続要件									
	データ	No.	ダッシュボード	データ	カテゴリ	概要	詳細	動向・対応事項	ステータス	起業者
		1								
		2								
		3								
		4								
		5								
		6								
		7								
		8								
		9								
		10								

サクセスナビは [こちら](#)



Appendix



参考 | ソリューション設計図(ダイアグラム)とは



複数のデータストリーム同士の連結がある場合など、複雑な設計となる場合はソリューション設計図を作成することを推奨します。

よく使う図

データストリーム名
(以降DSと記載)

レポート名
(目的を記載)

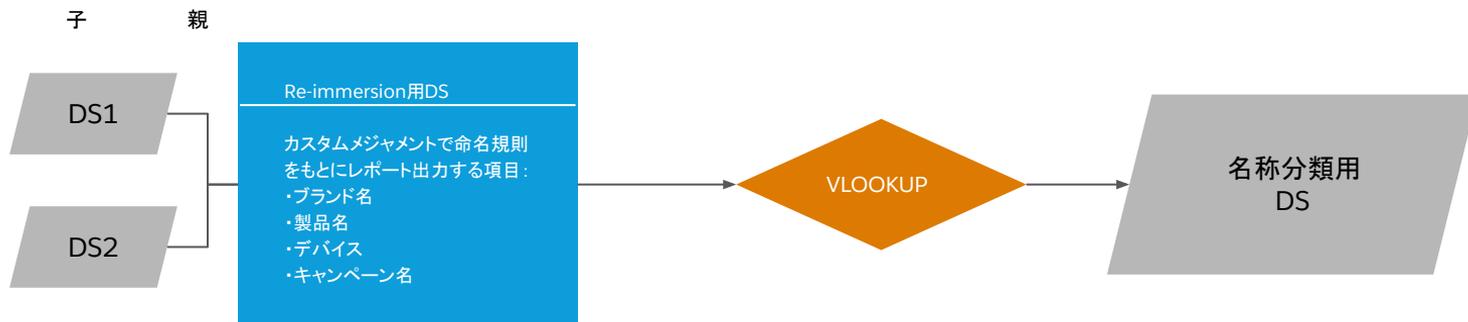
エクスポートする項目 1
エクスポートする項目 2
エクスポートする項目 3

VLOOKUP

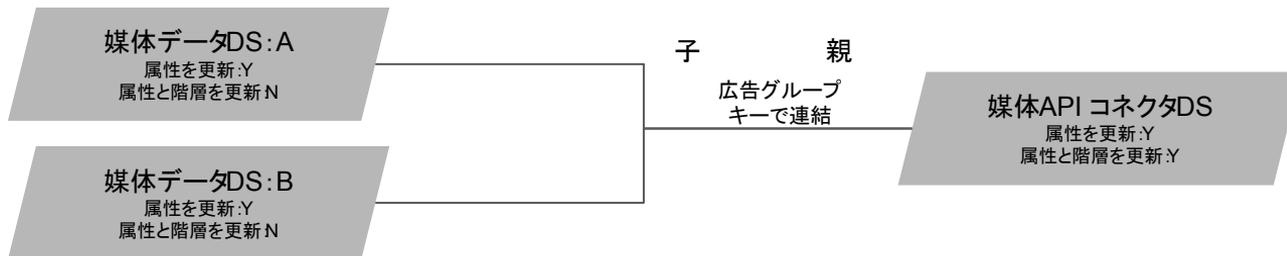
参考 | ソリューションダイアグラムの例



例1: DS1、DS2の表記揺れ項目をレポートとして出力した後、名称分類用 DSへVLOOKUPしたものを親子連結



例2: 媒体データDSにのみ存在するCVデータと参照元をAPIで接続している媒体とキャンペーンレベルで連結



※上記はあくまでも例です。最新の仕様および実際の設計に基づいて記載してください。





Thank you

